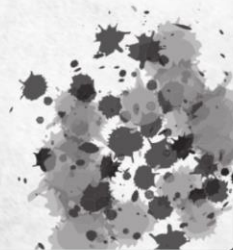




# マザー・テレサ

～ 奉仕とは覚悟である ～



## 時代背景

本日は、“生涯を貧しい人のために”と捧げ続けたマザー・テレサを紹介します。彼女の名前は知っているけれど、何をした人なのかはよく知らない…という人が多いのではないかと思います。そんな彼女が主に活動した拠点が[ ]です。当時のインドはイギリスからの独立の影響で、国内のヒンドゥー教徒とイスラム教徒の対立が激化しており、特に混乱を極めた時代にありました、そんな地で、なぜ彼女は慈善活動に力を入れたのでしょうか。また、[ ]として生きていくということは、「生涯独身・家族にも会うことができない」ということです。それほどの辛い選択をなぜ18歳ですることができたのでしょうか。彼女の生涯と一緒に勉強していくことにしましょう。



## 偉人の生涯

Mother Teresa 1910～1997 アルバニア 修道女

Keyword 「修道女のリーダー」「生涯独身」「神のお告げ」

西 暦	年齢	生 涯
1910	0	東ヨーロッパのコソボ州・ユスキュブにて、熱心なキリスト教徒の両親の間に生まれる
1928	18	故郷を離れ、アイルランドのロレット修道女会に入会。ダブリンで修道女としての教育を受ける
1931	21	インドに渡り、カルカッタの「聖マリア高等学校」の教師となる。修道名を「テレサ」とした
1937	27	終生誓願を行い、生涯修道女として過ごすことを誓う。 「 」と呼ばれる
1946	36	列車のなかで「もっとも貧しい人のために働きなさい」という神からのお告げを受ける。
1950	40	テレサが創設した修道会「神の愛の宣教者会」がカルカッタ教区に認可される。 この頃から「 」と呼ばれるように。
1952	42	ヒンドゥー教の廃寺院を国から譲り受け、修道会最初の「死を待つ人々の家」を設立する
1965	55	インド全土に修道会の活動が広がったことで、教皇により国外活動の許可が下る
1979	69	平和貢献の証として、[ ]を受賞。
1997	87	カルカッタのマザー・ハウスにて息を引き取る

### ★マザー・テレサは本名じゃない…

マザー・テレサの本名はアグネス・ゴンジャ・ボヤジという。特にインドで活躍した人物であることから、インド出身だと思っている人も多いが、実は東欧にあるアルバニア出身である。(ただし国籍はインド)

# 偉人の功績・思想



## ★「信仰と慈悲の心を育んだ幼少期」

マザー・テレサの母親は熱心な [ ] 信者でもあったため、時間があるときはよく [ ] に行くことが多かったテレサ。12歳にして、資産家に生まれながらの財産を捨て、修道者となった聖フランシスコの話を知り、彼女も同じく12歳にして、宣教師として貧しい人々のために働きたいと決心したという。

**Work** みなさんは12歳の時何をしていましたか?? (振り返り⇒友人と共有)

- ・
- ・
- ・

そして、18歳の時、インドで修道女として生きることを決意します。修道女として生きることは生涯独身で、二度と家族にも会えないような厳しい道です。それでも彼女の意思は固く、1928年にインドのカルカッタに到着し、修道生活が始まりました。この時に「 [ ] 」という修道名が与えられています。

**Work** みなさんは18歳です、インドのスラムの状況を見てどのように感じますか



テレサならどのように感じ、どういった行動をとるのだろうか


〔参考：テレサの言葉〕

- 愛の反対は憎しみではなく [ ] である
- この世界は食べ物による飢餓よりも [ ] による飢餓の方が大きい



## ★なぜスラムは生まれてしまうのか

スラムとは…一般的には貧しい生活状態の人たちが \_\_\_\_\_ して暮らす地域のことを指す

Think  : スラムが起こる原因はどんなものがあるのだろうか

- ・ \_\_\_\_\_
- ・ \_\_\_\_\_
- ・ \_\_\_\_\_
- ・ \_\_\_\_\_

スラムを定義する5つの“困窮”

- ①：水へのアクセス ②：衛生施設（トイレ）へのアクセス ③：住み続けられる保証  
④：住居の耐久性 ⑤：十分な生活空間


### ☑ 発展途上国におけるスラムの現状



( \_\_\_\_\_ : ダーラーヴィー地区) ( \_\_\_\_\_ : マンシュット・ナセル地区) ( \_\_\_\_\_ : キベラスラム)



( \_\_\_\_\_ : マニラ・トンド地区) ( \_\_\_\_\_ : リオデジャネイロ・ホシーニャ)

Question  : 次の国の中で、スラムが存在する国は○で囲ってみましょう

日本      スペイン      アメリカ      イギリス

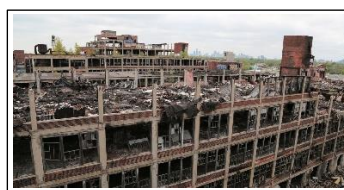
### ★発展途上国だけではない先進国のスラム化

かつては工業として発展した場所も、経済の変化による産業の衰退とともに企業の移転が相次ぎ、低所得者層が集まってスラムを形成しています。先進国のスラムは、古くに建造された都心にある建物が老朽化してしまい、郊外にコミュニティが移っていくことで起こるとされています。

(問題) と呼んでいる



(1900年代前半)



(1900年代後半)





## 偉人の功績・思想

### ★ノーベル平和賞受賞（1979）

マザー・テレサの献身的な活動は世界中へと広がり、1979年にはノーベル平和賞を受賞しました。

その際、マザー・テレサは次のようなスピーチを行ったとされています。

私はノーベル平和賞にふさわしい者ではありません。けれど世界中の貧しい人々に代わって、この名誉ある賞をいただきます。私のための受賞晩餐会はありません。どうぞ、そのお金を貧しい人々のためにお使いください

#### マザー・テレサに対する批判

貧困救済を始めとする数々の業績で知られますが、彼女に対してかけられるのは称賛の声だけではありません。

#### 治療の質に関する批判

マザー・テレサが設立した施設での医療ケアの質が低いという批判がある。一部の提供者は、病院よりもホスピスに近いと指摘し、十分な病気の治療や鎮痛対策が提供されていないと主張している。

※ホスピス…終末期の患者に、人生の終わりとして感情的・精神的な要求に対処することに焦点を充てた医療

#### 資金の使用に関する批判

彼女はカトリック教会の教えを厳格に守っており、特に中絶や避妊に反対する立場をとり続けた。

これに対し、人権や女性の健康に対する観点から批判する声もある。

#### 政治的な立ち位置に関する批判

生涯を通じて多くの国際的な指導者と交流しましたが、一部の批判者は彼女が独裁者や腐敗した政治家とも関わりをもったことに対して、批判的な意見もある。



私たちは偉大なことをする必要はない

ただ小さなことを大きな愛をもってするだけでいい

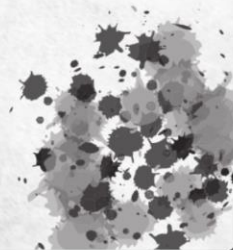
誰かに微笑みかけること、それは愛の表現であり、

その人への素晴らしい贈り物となる美しいものです



# マザー・テレサ

～ 奉仕とは覚悟である ～



## 時代背景

本日は、“生涯を貧しい人のために”と捧げ続けたマザー・テレサを紹介します。彼女の名前は知っているけれど、何をした人なのかはよく知らない…という人が多いのではないかと思います。そんな彼女が主に活動した拠点が [ **インド** ] です。当時のインドはイギリスからの独立の影響で、国内のヒンドゥー教徒とイスラム教徒の対立が激化しており、特に混乱を極めた時代にありました、そんな地で、なぜ彼女は慈善活動に力を入れたのでしょうか。また、[ **修道女** ] として生きていくということは、「生涯独身・家族にも会うことができない」ということです。それほどの辛い選択をなぜ18歳ですることができたのでしょうか。彼女の生涯と一緒に勉強していくことにしましょう。



## 偉人の生涯

Mother Teresa 1910～1997 アルバニア 修道女

Keyword 「修道女のリーダー」「生涯独身」「神のお告げ」

西 暦	年齢	生 涯
1910	0	東ヨーロッパのコソボ州・ユスキュブにて、熱心なキリスト教徒の両親の間に生まれる
1928	18	故郷を離れ、アイルランドのロレット修道女会に入会。ダブリンで修道女としての教育を受ける
1931	21	インドに渡り、カルカッタの「聖マリア高等学校」の教師となる。修道名を「テレサ」とした
1937	27	終生誓願を行い、生涯修道女として過ごすことを誓う。 「 <b>シスター・テレサ</b> 」と呼ばれる
1946	36	列車のなかで「もっとも貧しい人のために働きなさい」という神からのお告げを受ける。
1950	40	テレサが創設した修道会「神の愛の宣教者会」がカルカッタ教区に認可される。 この頃から「 <b>マザー・テレサ</b> 」と呼ばれるように。
1952	42	ヒンドゥー教の廃寺院を国から譲り受け、修道会最初の「死を待つ人々の家」を設立する
1965	55	インド全土に修道会の活動が広がったことで、教皇により国外活動の許可が下る
1979	69	平和貢献の証として、[ <b>ノーベル平和賞</b> ] を受賞。
1997	87	カルカッタのマザー・ハウスにて息を引き取る

### ★マザー・テレサは本名じゃない…


マザー・テレサの本名はアグネス・ゴンジャ・ボヤジという。特にインドで活躍した人物であることから、インド出身だと思っている人も多いが、実は東欧にあるアルバニア出身である。(ただし国籍はインド)

# 偉人の功績・思想




## ★「信仰と慈悲の心を育んだ幼少期」

マザー・テレサの母親は熱心な [ カトリック ] 信者でもあったため、時間があるときはよく [ 教会 ] に行くことが多かったテレサ。12歳にして、資産家に生まれながらの財産を捨て、修道者となった聖フランシスコの話を聞き、彼女も同じく12歳にして、宣教師として貧しい人々のために働きたいと決心したという。

Work  みなさんは12歳の時何をしていましたか?? (振り返り⇒友人と共有)

- ・
- ・
- ・

そして、18歳の時、インドで修道女として生きることを決意します。修道女として生きることは生涯独身で、二度と家族にも会えないような厳しい道です。それでも彼女の意思は固く、1928年にインドのカルカッタに到着し、修道生活が始まりました。この時に「 **テレサ** 」という修道名が与えられています。

Work  みなさんは18歳です、インドのスラムの状況を見てどのように感じますか



テレサならどのように感じ、どういった行動をとるのだろうか

〔参考：テレサの言葉〕


- 愛の反対は憎しみではなく [ 無関心 ] である
- この世界は食べ物による飢餓よりも [ 愛 ] による飢餓の方が大きい





## ★なぜスラムは生まれてしまうのか

スラムとは…一般的には貧しい生活状態の人たちが 密集 して暮らす地域のことを指す

Think  : スラムが起こる原因はどんなものがあるのだろうか

- ・教育格差により職に就けない
- ・貧困層の都市部への移住がうまくいかず、都市の周りに住み着く
- ・職に就けないことから、麻薬の売買や強盗などの犯罪に手を染める人が出てくる→治安の悪化

スラムを定義する5つの“困窮”

- ①: 水へのアクセス
- ②: 衛生施設 (トイレ) へのアクセス
- ③: 住み続けられる保証
- ④: 住居の耐久性
- ⑤: 十分な生活空間

### ☑ 発展途上国におけるスラムの現状



( インド : ダーラーヴィー地区)



( エジプト : マンシュット・ナセル地区)




( ケニア : キベラスラム)



( フィリピン : マニラ・トンド地区)



( ブラジル : リオデジャネイロ・ホシーニャ)

Question  : 次の国の中で、スラムが存在する国は○で囲ってみましょう

日本

スペイン

アメリカ

イギリス

### ★発展途上国だけではない先進国のスラム化

かつては工業として発展した場所も、経済の変化による産業の衰退とともに企業の移転が相次ぎ、低所得者層が集まってスラムを形成しています。先進国のスラムは、古くに建造された都心にある建物が老朽化してしまい、郊外にコミュニティが移っていくことで起こるとされています。

インナーシティ現象 (問題) と呼んでいる



(1970年代前半)



(1970年代後半)



## 偉人の功績・思想

### ★ノーベル平和賞受賞（1979）

マザー・テレサの献身的な活動は世界中へと広がり、1979年にはノーベル平和賞を受賞しました。

その際、マザー・テレサは次のようなスピーチを行ったとされています。

私はノーベル平和賞にふさわしい者ではありません。けれど世界中の貧しい人々に代わって、この名誉ある賞をいただきます。私のための受賞晩餐会はありません。どうぞ、そのお金を貧しい人々のためにお使いください

#### マザー・テレサに対する批判

貧困救済を始めとする数々の業績で知られますが、彼女に対してかけられるのは称賛の声だけではありません。

#### 治療の質に関する批判

マザー・テレサが設立した施設での医療ケアの質が低いという批判がある。一部の提供者は、病院よりもホスピスに近いと指摘し、十分な病気の治療や鎮痛対策が提供されていないと主張している。

※ホスピス…終末期の患者に、人生の終わりとして感情的・精神的な要求に対処することに焦点を充てた医療

#### 資金の使用に関する批判

彼女はカトリック教会の教えを厳格に守っており、特に中絶や避妊に反対する立場をとり続けた。

これに対し、人権や女性の健康に対する観点から批判する声もある。

#### 政治的な立ち位置に関する批判

生涯を通じて多くの国際的な指導者と交流しましたが、一部の批判者は彼女が独裁者や腐敗した政治家とも関わりをもったことに対して、批判的な意見もある。



私たちは偉大なことをする必要はない

ただ小さなことを大きな愛をもってするだけでいい

誰かに微笑みかけること、それは愛の表現であり、

その人への素晴らしい贈り物となる美しいものです